

P11

当院来院患者の食生活状況に関する アンケート調査結果について

○増山 結*、奥 猛志*、井形紀子*、
切手英理子*、弘野美紀*、佐藤秀夫**、
山崎要一**

*おく小児矯正歯科

**鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
小児歯科学分野

【緒言】近年、「噛めない、飲み込めない」など咀嚼の問題を抱える小児が増えていると言われている。今回、当院を受診し、食事の摂り方、咀嚼状況などのアンケート調査を行い集計分析したところ、興味ある知見を得たので報告する。

【対象ならびに方法】対象は、平成22年6月から平成23年5月までに当院を受診し、食生活アンケート調査を行った小児292名（男児130名、女児162名）である。平均年齢は5歳1か月（1～12歳）であった。アンケートは初診時もしくは齲蝕治療終了後の保健指導時に保護者に記入してもらった。アンケート項目は、現在ならびに過去の食事に関する18項目とした。

【結果ならびに考察】回答内容を集計した結果、「三度の食事を規則正しく食べていない」と答えた者が24名（8%）、「食が細い」が55名（19%）、「あまり噛んでいない」が51名（17%）、「噛み切れずに途中で口から出す」が137名（46%）、「好き嫌いがある」が183名（61%）、「食事中に飲み物を飲む」が280名（94%）、「間食の時間を決めていない」が115名（38%）であった。また、「口をぽかんと開けている」と答えた者が81名（27%）にみられた。

これらの結果から、食生活に問題を抱える小児の頻度は高く、小児歯科として何らかの支援を検討する必要が認められた。

P12

知的障害者更生施設入所者への 長期口腔管理と今後の課題

○大内山晶子、奥 猛志、井形紀子、
切手英理子、新徳知子

おく小児矯正歯科

【緒言】当院では、平成11年から知的障害者更生施設入所者の口腔管理を行ってきた。当初は、齲蝕や歯周病治療等、入所者の歯科治療を行うとともに介護者への口腔衛生指導を徹底し、入所者の口腔内環境の改善を図った。その後、定期口腔管理と並行して、入所者自身に対しての口腔衛生自立訓練を継続している。しかし、入所者の高齢化に伴い、新たな課題も生じてきている。今回は、これまでの事業の評価ならびに現在の入所者が抱えている問題を把握するために、支援員へのアンケートを行い、今後の課題について検討したので報告する。

【対象ならびに方法】対象は、鹿児島市の某知的障害者更生施設への入所者52名（男性38名、女性14名）であり、平均年齢は42歳（22～71歳）であった。支援員に、歯みがきならびに食事や摂食嚥下に関するアンケート調査を行った。

【結果ならびに考察】アンケート結果では、「仕上げ磨きに対する支援員の負担が減った」と答えた者は19名（37%）であった。

「歯みがき自立訓練後の日常生活に変化があった」は27名（52%）であり、歯みがき行動による改善が認められたと考えられた。食事・摂食嚥下に関しては「以前と比べて固い物を食べなくなった」が9名

（17%）、「食事中むせたり詰まらせたりすることが増えた」が8名（15%）、「食事介助の負担が増えた」が10名（19%）であり、入所者の高齢化に伴い、摂食嚥下への対応が必要になっていくと考えられた。